

ピンチの時こそチャンス

橋賀台サンダース

私たち橋賀台サンダースは、小学1〜6年生の19人で土・日曜日に橋賀台小学校のグラウンドで活動しています。団員数の減少により、平成27年に一度解団となりましたが、メンバーを集めて今年再結成。新たに始動したチームで一丸となって練習に取り組んでいます。

チームは学年に関係なく、みんなの仲が良いのが特長です。休憩中は学校であった出来事などを話していて、とても良い雰囲気です。でも、監督から練習開始の声が掛かると顔付きが変わります。バッティングや試合形式の練習では、それぞれがフォームや立ち位置を丁寧に確認するなど、技術を磨くことに真剣です。素早く切り替えができるところが、このチームの良いところだと思います。指導をしてくれている定京監督からは「ピンチの時こそチャンスと思え」と教えられています。

例えば守備の場合、塁にランナーがいない方が失点の可能性が低いです。逆に、塁にランナーがいる方が、けん制球などでアウトを取る可能性が広がります。ピンチの状況でも、そのどこかにあるチャンスを逃さないよう、試合中は落ち着いたプレーを心掛けています。

再結成したばかりで人数も少ないチームですが、一試合でも多く勝てるように頑張っています。



見事なタッチアウト



練習でも全力投球



川上 夏月 キャプテン(6年生)

兄がきっかけで野球を始めました。ヒットを打てたときは野球をやっている良かったと思います。

クラブ訪問 199

墨に命を吹き込む

水楽

私たち「水楽」は、毎月第2・4水曜日に八生公民館で水墨画を学んでいるサークルです。画家の綿貫廣子さんを講師に、12人が活動しています。

水墨画は、手すき和紙の上に、自分ですった墨と水だけで、絵の世界を広げていきます。用いられる色は黒に限られますが、加える水の分量で濃淡をさまざまに表現することができます。私たちの場合、あらかじめ濃度の違う墨を4種



熱心に制作に取り組むメンバーです



集まってアドバイスを聴く



しわを寄せた紙に波の動きを表現

類ほど用意しておきます。それと欠かせないのが霧吹きです。和紙に水を吹き掛け、時には破けそうなほどの水分を含ませながら筆を置いていきます。これは、筋のような筆跡を付けないようにするためです。跡が付くと、絵がべったり止まっているような印象になり、生命感がなくなってしまうです。私たちは、旅先の景色や庭の草花など自分で描きたいものを題材にしますが、そこに吹く風や空気の温かさなど、目に見えないものを感じさせたいと思っています。

また、濡れた和紙に墨をのせた際に広がる、自然なじみも表現に活用します。しかし、一度濃い色をのせてしまうと後には戻れません。絵の完成像を考えながら濃淡を付けていくこと、思ったような濃さにするため水の量を調節することは難しく、苦労します。

メンバーが先生から指導を受ける時には、みんな一緒に耳を傾けます。その内容は自分の作品にも通じることが多く、とても勉強になります。「すごく良いね」「どうやって描いたの」など、声を掛け合うこともあります。

これからも互いに励まし、作品を生み出す苦しさを乗り越えて、見た人が絵の世界に入り込むような生命感のある水墨画を描きたいです。

スクスクのびのび



かどい つばさ
門井 翔夢くん(3歳)本三里塚

とってもステキな笑顔のつばさ君。いつも癒やされています♡

やまだ そら
山田 蒼空くん(2歳)加良部

元気いっぱい笑顔もいっぱい。いつもありがとう♡



すずき いくと
鈴木 幾登くん(7カ月)郷部

いつでも誰にでもニコニコ♪わが家のアイドルです!

このコーナーには市内在住で5歳までのお子さんの写真を掲載しています。お気に入りの1枚が撮れましたら、ぜひお寄せください。

- 応募方法 お子さんの写真に住所・氏名(ふりがな)・生年月日・親の名前・電話番号・30字程度のコメントを添えて広報課へ
- 応募先 〒286-8585 花崎町760 成田市役所広報課
- 問い合わせ 広報課 ☎20-1503